

島根の食育の現状・現場の声

取組と成果

第一次・第二次食育推進計画を策定し、県・市町村で食育の啓発・活動を実施。
⇒
 ・幼児や児童生徒の朝食欠食率の減少
 ・給食における地産地消率の上昇
 ・全市町村で食育推進計画策定 など

課題

・若年層における食生活の乱れ（朝食の欠食、野菜摂取量の低さ）、生活習慣病の増加
 ・家庭における「個食」「孤食」

意見交換にて…

「つなぎ役」や連携づくりが重要
連携の仕組みが求められている

若い世代の食育・実践は難しい
家庭や社会環境の変化も影響

取り組みやすい仕組みが大切
楽しい活動の提供で実践へ

見えてきた課題

関係者同士の連携の創出と強化

県内各地に食育の担い手はいるものの、つながりは希薄。
⇒
 ・活動範囲が限定的で広がらない。
 ・世代交代が進まず活動の維持が困難。
 ・活動が酷似していても連携ができていない。

多様化した生活習慣への対応 ～若い世代を中心に～

若い世代は、「食」への意識が相対的に低下しやすい。
生活習慣が多様化する中、画一的な取組は非効率になる。

食育の推進に向けたキーワード

既存の「食育の担い手」の力を一層活用しながら、課題解決に向けた仕掛けを！

「つなぐ」食育

- リーダー人材の確保 ～人・組織をつなぐ～
- 原体験の必要性 ～体験へつなぐ～
- 地元志向 ～地元とつなぐ～
- 人生のターニングポイント ～タイミング良くつなぐ～

様々な施策を組み合わせ、「つなぐ」食育プロジェクトとして位置付け、食育を推進。

施策実施へのアプローチ

プロジェクトを構成する施策は、今後整備が必要と思われる3つのカテゴリーに分けて実施していく。

連携の創出

- 食育を通じて更なる価値の創造をめざす
- 個人、団体同士の相互連携
 - 県内企業と協力
 - 食育をテーマに人つなぎ

人材の育成と活用

- これからの食育を担う人材育成・活用ツール
- 食育の担い手の有効活用
 - スペシャリストの育成
 - 食育の知識、ノウハウの提供

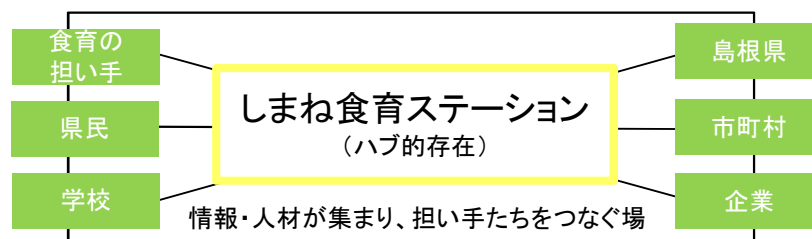
広報・啓発の一元化

- 食育情報にアクセスしやすい環境づくり
- 情報を集約したホームページを開設
 - SNS、ネットワークを利用
 - 気軽な学習ツールの作成

しまね食育ステーション

既存の食育をつなぐハブ的存在を「しまね食育ステーション」と名付け、それを中心に施策を展開する。

県内に多数いる食育の担い手のつながりは希薄。
既存の様々な活動や情報をつなぎ、広げていける仕組みがない。



担い手同士の新たな連携を生み出すきっかけをつくり、「つなぐ」食育プロジェクトの実行がよりスムーズに。

個別施策

連携の創出

食育でつながる・広がる交流会

- 気軽な交流会で自己研鑽と相互理解を。
- この指とまれ！
仲間を得るための公開プレゼンを実施。
 - 食育ワールド・カフェ
オープンな対話で新たな発想を。

スーパーde食育

- 食育ステーションとスーパーのネットワークを活かして、消費者へ旬な情報を発信。店頭での取組実施で、更なる効果に期待！
- 食育メニュー応援
 - 健康メニューセット販売 etc

しまね縁結びメニュー

- 「地産地消」「ヘルシー」にこだわった寄附金付きの食事や商品を企業等が開発。
- 県がメニューの認定と寄附金を管理。
 - 寄附金は島根の食文化や農林水産業の支援に役立てる。

人材の育成と活用

しまね食育ブースター

- 食育の応援団制度を設け、人材の育成・活用、分野・地域を越えた連携を図る。健康づくり応援店の特典によりブースター登録を推進。
- ホーター：誰でもなれる「食育の応援団」
 - チューター：人生の転機に若者から若者へ
 - アドバイザー：講演会の講師など
 - コーディネーター：広域的、専門的な課題に対応

“食材”提供

- 食育の担い手や担うべき人に、食育の材料（＝食材）を提供。
- 研修パック
受入先の手配から実施準備までステーションが引き受けるので、気軽に食育の研修旅行が可能に！
 - 教材バンク
食育の教材・手法の共有化で、気軽な食育実践をサポート。

広報・啓発の一元化

食育情報総合サイト「e食しまね」

- 様々な情報が集まるバーチャルな場に。
- 情報を投稿する機能。
 - Facebook等のSNSやメールマガジンを通じた情報発信。
 - 各施策と連動した内容。

しまね食育アプリ

- 若い世代への楽しい食育ツールの提供。
- 若い世代を楽しく、気軽に、いつでも食育するアプリコンテストを開催。
 - 若い世代に多いスマートフォンアプリの利用者・開発者に、食育への動機づけを図る。

しまね女子キッチン

- 若い女性の「作ること・食べること」に対する意識を底上げ。
- 若い女性に関心の高いテーマやモノを取り入れた、少人数の調理体験イベント。
 - 県内女子会などに連携を求める。